

鵜殿ヨシ原の過去からの変遷

みち、ひと…未来へ。

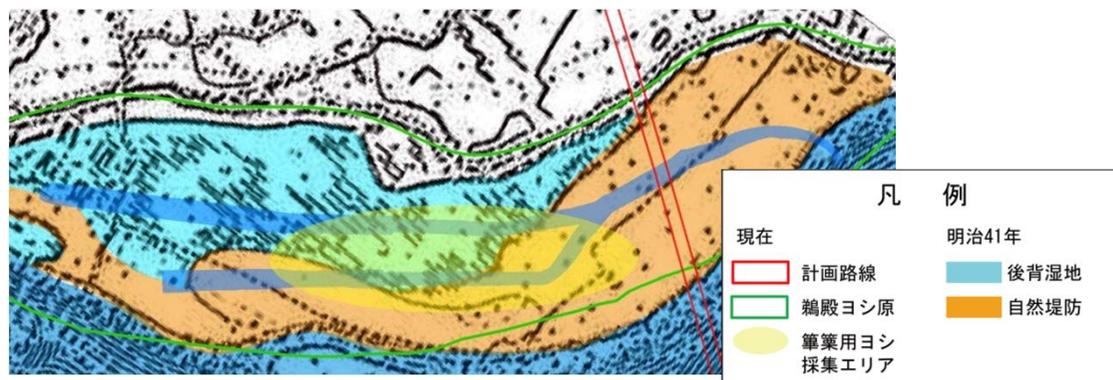


1. 鶺殿ヨシ原の変遷～成り立ちと土地利用状況～

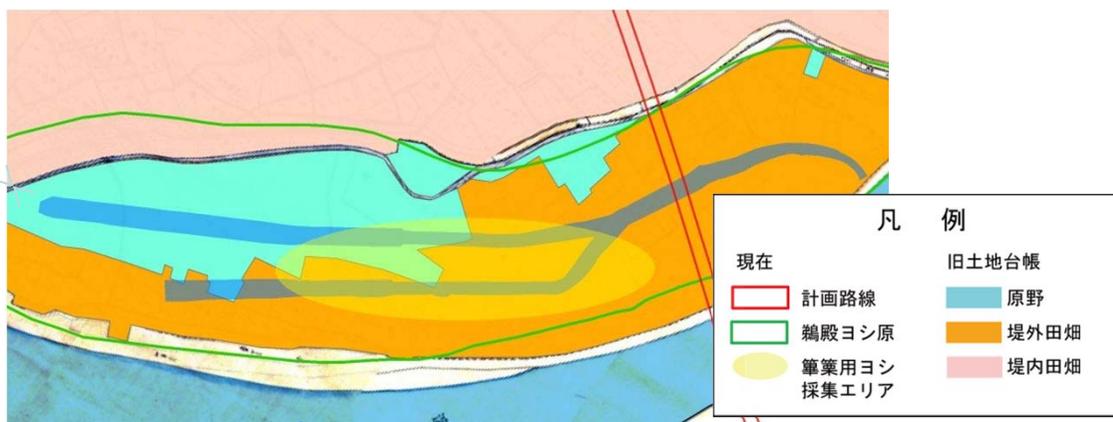
明治中期

- 仮製地形図によると、鶺殿ヨシ原の上流部から河道側かけて、流下堆積物による比較的標高の高い自然堤防とその後背地に湿地帯が形成されていた。
- 旧土地台帳付属地図によると、自然堤防部は田畑として活用されていた。

明治41年の鶺殿ヨシ原 (仮製地形図を引用)



土地の利用状況 (旧土地台帳付属地図を参考に作成)



大正

考 察

- 現在の筆築用ヨシ採取エリアは田畑として活用されていた自然堤防部が主体である。

2. 鵜殿ヨシ原の変遷～河川改修工事の実施～

昭和

- 鵜殿ヨシ原は本川水位の上昇に伴い、年数回冠水していた。

昭和50年頃

- 昭和46年以降は、治水目的による河川改修を実施

本川水位の低下

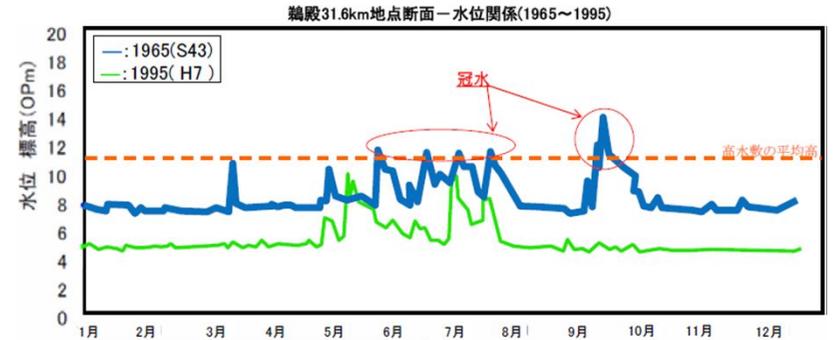
冠水頻度の減少

- 昭和57年にはヨシ原面積が8%程度まで縮小

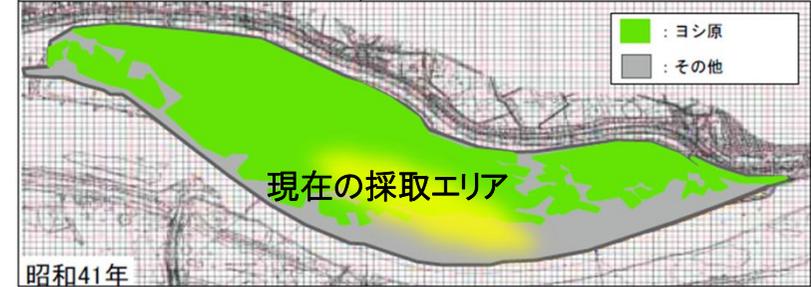
※筆簍用ヨシはそれなりに採取できていたが、つる草が増加してきて、筆簍用ヨシが減少してきたと思う。

考察

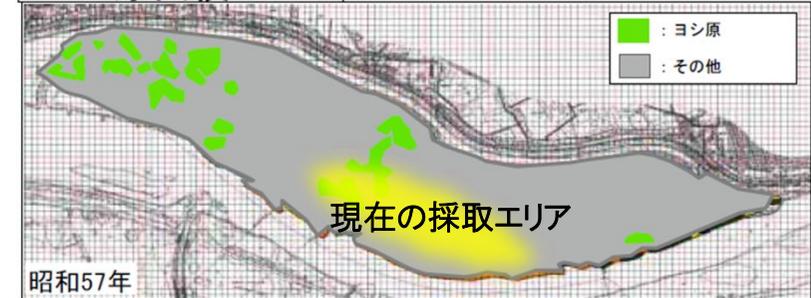
- 鵜殿ヨシ原の乾燥化によるヨシ原の減少に伴い、筆簍用ヨシ採取エリアも減少した。



ヨシ原面積：81%



ヨシ原面積：8%



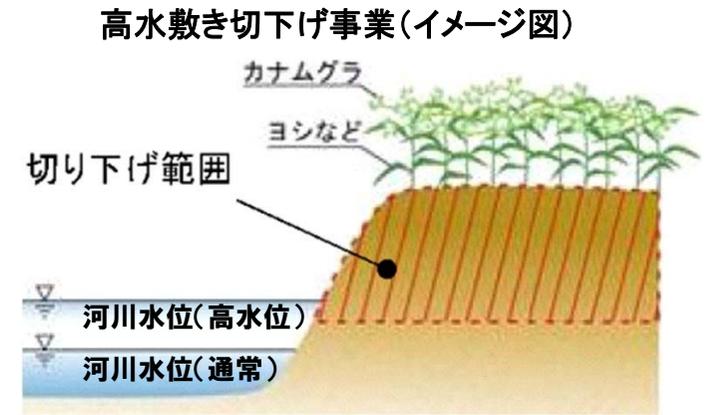
※赤字は地元熟練者の方々への聞き取りから記載

3. 鵜殿ヨシ原の変遷～ヨシ原再生事業の実施～

平成5年

- 国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所による
ヨシ原再生事業の着手

- ① ヨシ原高水敷切下げ事業
年4～5回程度の冠水が期待できる地盤まで切下げて、
当該箇所へヨシ地下茎を含む土の撒き出しを行う
- ② 導水路設置及び配水事業
導水路を設置し、淀川からポンプアップにより通水する



平成10年

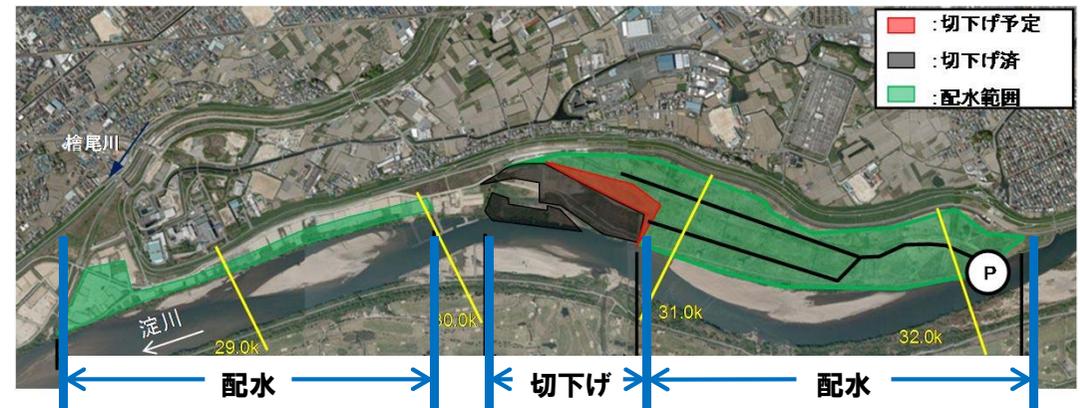
- 導水路(延長約2.6km)に通水を開始



揚水ポンプ吐出口



導水路(通水時)



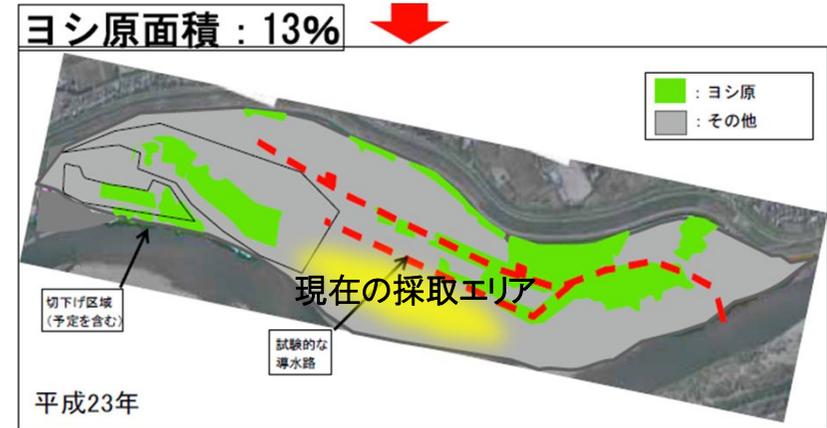
4. 鶺鴒ヨシ原の変遷～ヨシ原再生事業の効果と現状～

平成23年

- ヨシ原再生事業により、平成23年にはヨシ原面積が13%まで回復
- 切下げ区域や導水路及びその周辺でヨシが回復している。

※導水路に生えているヨシは細くてすぐ折れるので、筆築用ヨシには使わない。

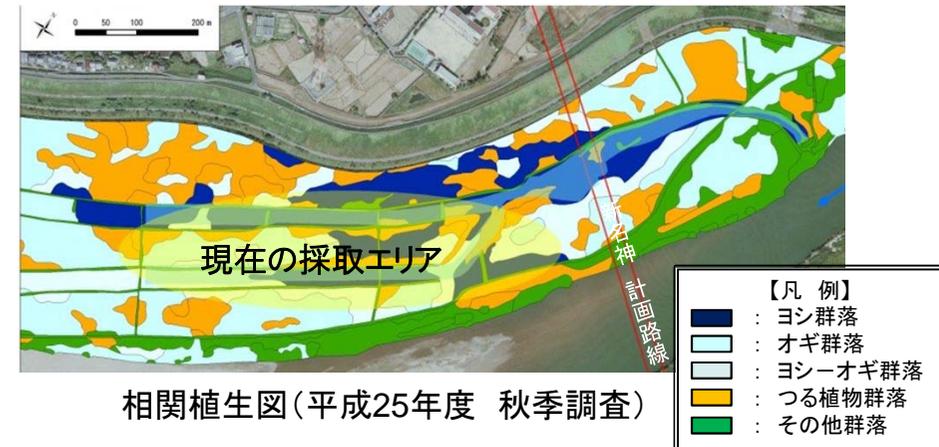
夏場に雨が少ない年は筆築用ヨシの質が悪かった。



平成25年

- 平成25年9月の台風18号により、鶺鴒ヨシ原が冠水

※一部が草で覆われ、筆築用ヨシが取れる箇所が減った。



考察

- 再生事業によりヨシ原面積は回復している。
- 導水路に生えているヨシは筆築用ヨシには使われておらず、近年はつる植物の広がりにより採取エリアが減少している。

※赤字は地元熟練者の方々への聞き取りから記載